

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立佐賀工業高等学校(定時制)	達成度(評価) A:十分達成できている B:おおむね達成できている C:やや不十分である D:不十分である
1 前年度 評価結果の概要	<p>・「学びの時間」(国語・数学)の取組が、基礎学力の向上に十分反映されているとは言えない。また、給食アンケートの実施・給食だよりの発行・食育に係る講話により喫食率の向上に取り組んだが改善に繋がっていない課題がある。</p> <p>・「いじめ問題への対応」については、事案の覚知・認知ともになく、日常の未然防止の取組や人権教育の推進に一定の成果があったと考えられる。</p> <p>・志願者が減少傾向にあり、学校ホームページの更新、高校説明会、中学校訪問等を通じて、一層の定時制教育の魅力発信に取り組み、生徒募集に繋げていく必要がある。</p>	
2 学校教育目標	<p>・地域産業の発展のみならず、日本の産業界を牽引し、倫理観を持って未来に貢献する優秀な工業技術者を育成する。</p> <p>・主体的な学び、協働学習、探究活動を重視した教育を実践し、時代に即した柔軟な考え方を創造できる力を育む。</p> <p>・専門分野の基礎的な知識・技術を習得するとともに、先端的技術と融合させた学習を取り入れ、文武バランスの取れた環境を整えることで、自ら学び、考え、行動できる生徒を育成する。</p>	
3 本年度の重点目標	<p>〇「ものづくり」から「者(ひと)づくり」そして「未来(あす)づくり」 ア 新たな課題への着実な対応 イ 深い生徒理解に基づく指導 ウ 規律ある高校生活の定着 エ ものづくり教育の推進 オ 開かれた学校づくりの推進</p>	

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 〇わかる授業の実践と学習意欲の向上 〇学び直しの実践 	<ul style="list-style-type: none"> 〇普通教科における基礎的な学力を育成し、4年生の学びの基礎診断において、準備時間を6時間以上行い、国語・数学の平均50点以上にする。 〇義務教育程度の学び直しの時間を5回以上確保する。2年生の学びの基礎診断において、国語の平均70点以上・数学の平均50点以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの基礎診断を利用し、生徒の学力を把握するとともに個々の学力に応じた基礎的な内容や一般常識の学習を授業に取り入れ、就職試験にも対応できるようにする。 ・国語・数学に関して、どの段階で躓いているのかを生徒が自ら確認できるようにドリル形式の問題による学び直しの時間を確保する。複数の職員を配置して個別の指導が行えるようにする。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> 〇「相手を思いやる」や「命の尊さを再認識した」と答える生徒100%を目指す。 〇学校生活アンケート等を2か月に一度実施し、「未然防止」「早期発見」「早期対応」に向けた体制の推進する。 〇いじめを「しない」「させない」「ゆるさない」心を育成する教育を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エイズ予防講話、性に関する指導講話を全学年実施する。 ・アンケート調査ならびに担任による面談等を実施する。 ・全職員による登校指導等を行い、未然防止・早期発見につなげる。 ・全職員によるいじめの覚知と認知に関わる情報の共有化を図る。 ・LHRや集会等で、心を育成する教育を実践する。 	A	・6月にエイズ予防講話、9月に性に関する指導講話を行った。性に関する講話では、男子生徒に重りの入ったリュックを使って妊婦体験をさせていただき、感想文を見ると、母親の偉大さ、妊婦生活の大変さを実感することができたと述べていた。	A	・生徒のアンケート結果も良好で素晴らしいと思う。
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ●望ましい生活習慣の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上 ●「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上を目指す。 〇給食喫食率80%以上を目指す。 〇感染症、食中毒等を防ぐための自己管理能力を育成し、「手洗いは大切である」と答える生徒100%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育講話を実施。食に対する重要性を説き、喫食を促す。 ・給食アンケートを2回実施し、その後の指導に繋げる。 ・グリッターバッグを使った手洗い指導を実施する。(1年生対象) ・生徒昇降口に給食のメニューと、摂取できる栄養素を提示して(生徒会協力)喫食率を高め、食事と栄養に対する意識を高める。 	B	・外部講師を呼んで、食育講話を行った。食事の際に、生産者・調理者への感謝を態度で示すことの重要性を理解させることができた。 ・朝食を毎日欠かさず食べる21%、主食のみが50%で、健康に良い食事をしている生徒は10%程度だった。 ・給食喫食率は66.3%だった。「健康に食事は大切である」「手洗いは大切である」と答えた生徒は100%だった。	B	・健康に良い食事があまりできていないのは、各生徒の事情があり難しい問題だと思うが、食事の大切さは認識しているようなので今後改善されていけばと思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 〇事務職員の学校運営への積極的参画と教員との連携促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、副担任と教育相談、スクールカウンセラー、養護教諭等との連携を密にし、全教職員が共通理解を図りながら相談・指導にあたる。 ・月1回の職員会議において教職員が情報を提供し、組織的教育相談の体制を確立する。 ・学校閉庁日の設定、年次休暇の積極的取得を推奨し、教職員の心身の健康増進に繋げていく。 ・学校行事の精選に努めるとともに、校内の諸会議を勤務時間内に設定・実施する。 ・業務の適正化を図り、教職員の勤労意欲を一層高めることで、効果的な教育活動の実践に繋げていく。 ・学校教育目標を達成できるよう学習環境の改善・整備を行う。 ・教育職員が担当しているICT業務の軽減に向けた取り組みを行う。 	A	・ほぼ予定通りの面談を組むことができた。生徒たちも積極的に相談をしていた。 ・昨年度から精神的に不安定で、遅刻・欠席も多かった生徒が、時間をかけて面談と励ましを繰り返す中で、次第に精神的に落ち着き、欠席も減り、学校生活を楽しめるようになった。 ・時間外在校等時間の平均(R5.4~R6.1)は10時間以内となり、上限の45時間内を達成するとともに昨年度の平均値より縮減できた。 ・学校閉庁日や長期休業中等を利用した休暇取得により、職員の健康増進に繋げることができた。 ・行事や諸会議等は全て勤務時間内に実施することができた。	A	・生徒の精神的なフォロー頭が下がります。
				A	・校内で情報共有を図りセキュリティー環境の改善を行うことができた。 ・ヒアリングシートの提出等を行政職員が代行し、教育職員の負担軽減を図ることができた。	A	・一定の成果が得られていると思う。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				〇進路実現	<ul style="list-style-type: none"> 〇進路希望の実現 	<ul style="list-style-type: none"> 〇生徒・保護者にとって満足度の高い進路実現を達成する。(進路決定100%を目指す) 〇進路意識の高揚と職業観・勤労観の育成と定着。年度末生徒アンケートで「身についた」生徒70%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の能力・適性・希望に合った進路先の情報提供と適切な指導助言に努める。 ・在学中の就業率向上と職業講話などを通して職業観・勤労観の育成と定着を図る。
★ものづくり教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ★ものづくりに対する興味関心の醸成 〇ジュニア・マイスター取得者及び各種競技会上位入賞者増の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ★自分の学校を中学校に勧めることができる生徒の割合を78%以上、教職員の割合を85%以上とする。 ★学習に対し、主体的に取り組んだと思う生徒80%以上を目指す。 〇各種資格取得について、次の目標を達成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・計算技術検定合格率80%以上 ・パソコン利用技術検定合格率70%以上 ・危険物取扱者試験合格率40%以上 ・第2種電気工事士合格率100%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数でのきめ細やかな指導により、生徒の個性・能力・特技の伸長を図る。 ・始業前、放課後の補習を実施し、資格取得に対するチャレンジマインドの向上を図る。 ・学習が遅れ気味の生徒へは、個別指導を実施する。 	A	・自分の学校を中学校に勧めることができる生徒の割合は、生徒が92.8%、職員が85%で目標達成することができた。 ・学習に対し、主体的に取り組んだと思う生徒の割合は、85.7%で目標達成することができた。 ・資格検定の合格率は、計算技術検定100%、パソコン利用技術者検定75%、危険物取扱者試験0%、第2種電気工事士100%で、危険物取扱者以外は目標をクリアすることができた。 ・少ない生徒数を活かしたきめ細かい指導ができています。	A	・資格取得に対する意欲を育ててもらっている。
〇開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 〇魅力ある情報の発信 〇志願者、保護者の学校理解の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 〇学校HPの充実と月1回以上の更新を行う。 〇高校説明会等を通じて工業高校への理解や連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・志願者、保護者のニーズに対応したタイムリーな情報発信に努める。 ・危機管理意識に基づく情報公開により、安全・安心な教育活動を展開する。 	A	・メール配信システムメッセージの導入により、生徒や保護者への連絡が円滑に行えている。ただ、未登録者がおり、全員の登録を促したい。 ・学校行事のホームページ掲載は、随時行うことができた。	B	・とても良い学校なのに定時制の良さを知っている人が少ないと感じる。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	<p>・「学びの時間」の取組が、すべての教科に対し基礎学力の向上に十分反映されていない。次年度は、日々の学習活動等の見直しを行い一層の基礎学力向上に努めていく。</p> <p>・「いじめ問題への対応」については、事案の覚知・認知ともになく、日常の未然防止の取組や人権教育の推進に一定の成果があったと考えられる。次年度も、教育相談体制を維持し、生徒の安全安心な学校生活の確保に全力で取り組んでいく。</p> <p>・給食アンケートの実施・給食だよりの発行・食育に係る講話により喫食率の向上に取り組んだが改善に繋がっていない。次年度は、日常生活全般の見直しに対する意識を高めさせ、「食の大切さ」を含めた健康教育の充実に取り組む必要がある。</p> <p>・学校ホームページの更新、高校説明会、中学校訪問等を通じて、一層の定時制教育の魅力発信に取り組み、生徒募集に繋げていく。</p>
----------------	---